

看護短期大学生の入学時における学習技術

—Study Skills Surveys を用いて—

吉本知恵*, 伊達裕子, 堀美紀子, 淘江七海子

香川県立医療短期大学看護学科

Nursing Students' Study Skills by Study Skills Surveys in the Time of Entrance

Chie Yoshimoto*, Hiroko Date, Mikiko Hori and Namiko Yurie

Department of Nursing, Kagawa Prefectural College of Health Sciences

Abstract

The purposes of this study were to identify 1) the dealing of subjects for study and tendency, 2) the factor which influences study skills, in new nursing students of this college.

Subjects were 96 new nursing students of this college. Investigation time was July in 1999 and 2000. The questionnaire was a method of a registered questionnaire. As measuring tools, Study Skills Surveys of Brown was used for measurement of study skills.

In result, the assistance for raising student's study skills was found, it is more effective to approach the Study Technique and Study Organization than Study Motivation.

Key Words : 学習技術 (Study Skills), 看護学生 (Nursing Students),
看護教育 (Nursing Education)

*連絡先 : 〒761-0123 香川県木田郡牟礼町大字原281-1 香川県立医療短期大学看護科

*Corresponding address : Department of Nursing, Kagawa Prefectural College of Health Sciences,
281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, Kagawa 761-0123, Japan

はじめに

看護学生は入学時より看護婦という職業を志向して動機づけられており、主体性のない発意で入学してくる最近の一般的な大学生にくらべて、目的意識がありそれにふさわしい態度が備わっていると言われている¹⁾。ところが、最近では授業中に居眠りをしたり、私語をする学生が増えてきており²⁾、本学においても同様の傾向がみられる。そこで、学習指導のために学生の学習技術に関する実態を把握する事が必要であると考えた。

学習技術についての研究は、「Study Skills Surveys」やそれを参考に開発した質問紙を用いて大学生の学習習慣・学習態度の構造を明らかにし、性差や性格傾向との比較、あるいは「Study Skills Surveys」を用いて看護短期大学生の学習技術の継時的変化の調査、さらに質問紙による看護短大生の学習習慣・学習態度を明らかにしたものの、また看護学生の教室内学習における学習態度を調査した報告がある³⁻⁸⁾。

本研究の目的は、本学看護学科新生の学習技術および学習上の課題と対処の傾向を明らかにするとともに、学習技術に影響を与える要因について検討し、学習指導の参考資料とすることである。

用語の定義

学習技術とは、大学生としての適切な学習の仕方であり、林らの Study Skills Surveys を指す。

研究方法

1. 調査対象

本学看護学科に1999年4月に入学した49人および2000年4月に入学した49人の合計98人である。

2. 調査内容

1) 対象の背景についての調査項目は、①家族との同居の有無②アルバイト実施の有無と実施時間③サークル所属(学外も含む)の有無と参加程度④入試形態(推薦入試・一般入試)⑤看護志望の動機とした。

2) Study Skills Surveys は、W.F.Brown(1965)によって開発され、林が日本に導入した質問紙である。これは学習場面、学習方法、学習モチベーションの3つの下位領域から構成されている。

学習場面は、学習時間や学習の場の構成や調整についての20項目である。学習方法は、ノートのとおり方、テストの準備とテストの受け方などの20項目、学習モチベーションは、学生が教育活動の中に入っていきことや、教官の活動や要求に順応することについての20項目の質問からなり、合計60項目で構成されている。評定は、2段階(はい/いいえ)で行われる⁶⁾。

3) 「現在学習上困っている事柄」と「対処方法」については自由記載とした。

3. 調査方法

1) 調査方法

調査対象に、研究目的とプライバシーの保持を厳密に行うことおよび本研究の目的以外にデータを使用しないこと、必要があれば個人的に調査結果を返すことを説明し、質問紙を配布。研究に同意の得られた対象に、記名式で回答を求めた。

2) 調査時期

1999年度入学生は1999年7月に、2000年度入学生は2000年7月に実施した。

4. 分析方法

Study Skills Surveys については、質問内容の否定「いいえ」は積極的な方向で1点、逆に肯定「はい」は0点とした。各下位領域の合計をそれぞれ「学習場面における学習技術」(以下、「場面技術」)、「学習方法における学習技術」(以下、「方法技術」)、「学習モチベーションにおける学習技術」(以下、「モチベーション技術」)とし、これらの合計得点を「Study Skills」とした。

分析方法は以下のとおりである。

1) Study Skills Surveys 項目別回答数を比較する。

2) 「Study Skills」「場面技術」「方法技術」「モチベーション技術」における「家族との同居の有無」「1週間にアルバイトを10時間以上またはサークル活動を3日間以上実施しているか否か」「推薦入試・一般入試」により違いがあるか検討するために三元配置分散分析を行った。

なお、分析には統計ソフト SPSS Ver.10.0J for Windows & Advanced Models を使用した。

結 果

回収数は96件(回収率98.0%)であり、有効回答

は96件(100%)であった。

1. 対象の背景

家族との同居の有無については、一人暮らしをしている学生が46人(47.9%)、家族と同居している学生が50人(52.1%)であった。アルバイトを実施している学生は58人(60.4%)であり、サークルに所属している学生は63人(65.6%)であった。この中で1週間にアルバイトを10時間以上またはサークル活動を3日間以上実施している学生は48人(50.0%)であった。入試形態については、推薦入試の学生が38人(39.6%)、一般入試の学生が58人(60.4%)であった(図1)。

また、看護を志望した動機を3項目選択してもらった結果、1位は“医療・福祉への興味”が59件であり、ついで“仕事へのやりがい”が56件、“資格が得られるから”が37件で、積極的な動機が多かった(図2)。

2. Study Skills Surveys 60項目および下位領域毎の合計得点と平均値

Study Skills (60項目の合計得点)の合計は、2958.5点、平均値(M±SD)は30.8±7.2点であった。下位領域毎にみると合計得点が最も高いのは学習モチベーションの1139.5点であり、次に学習方法の1005.0点、学習場面の814.0点であった(表1)。

3. Study Skills Surveys 60項目の具体的内容

60項目の中で、「はい」と回答した(その技術が身につけていない)者の割合が80%以上の項目は11項目であった。

4. Study Skills Surveys 項目別回答数と割合

学習場面、学習方法、学習モチベーションにおける各質問に対する回答数とその割合を示したのが表2-1)~3)である。

1) 学習場面について「はい」と回答した者の多い項目をみると1位は「教室でとったノートを見直すのが、その日のうちではなく、翌日かそれよりあとになるのが普通ですか」92人(95.8%)であった。

2) 学習方法については、1位「レポートの内容をまとめあげるのが困難に感じる事がしばし

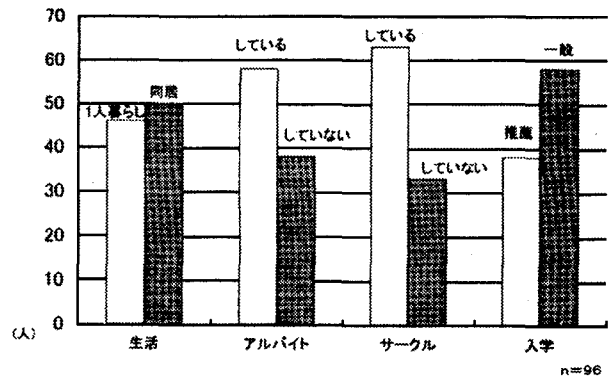


図1 学生の背景

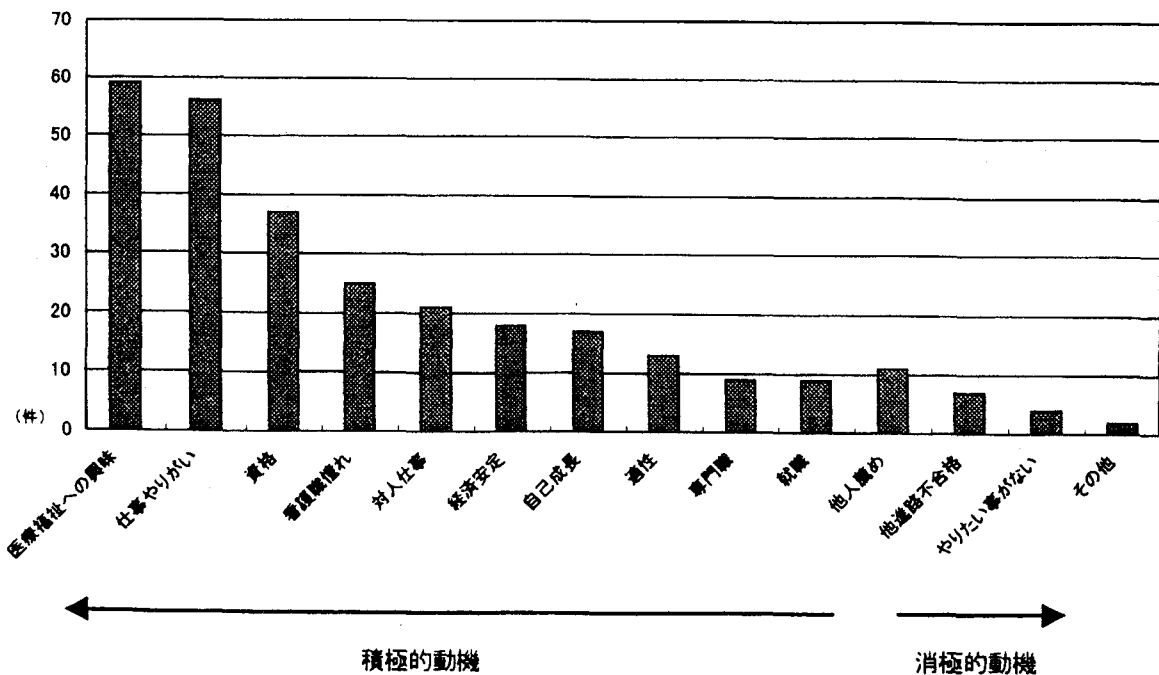


図2 学生の看護志望動機

表1 Study Skills および下位領域

n=96

	合計	平均値	標準偏差	最小値	最大値
Study Skills	2958.5	30.8	7.2	13.0	49.0
学習場面技術	814.0	8.5	2.8	3.0	16.0
学習方法技術	1005.0	10.5	3.1	3.0	17.0
学習モチベーション技術	1139.5	11.9	3.1	4.0	18.0

表2-1) 学習場面における項目別回答数と割合

学 習 場 面	は い		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)
⑥教室でとったノートを見直すのが、その日のうちではなく、翌日かそれよりあとになるのが普通ですか	92	95.8	4	4.2
⑧時々、宿題や予習、復習を早くやっておけばよかったと思いますか	90	93.8	6	6.2
②疲労や眠気のため効果的に勉強できないことがよくありますか	86	89.6	10	10.4
⑩勉強する時間が毎日一定せずまちまちですか	85	88.5	11	11.5
⑦午前8時から午後4時までの自由時間を、学習以外のことに使うのが普通ですか	82	85.4	14	14.6
④勉強しなければならない時間を、娯楽雑誌やテレビや、噂話で過ごすことがよくありますか	71	74.0	25	26.0
⑫必要な本や資料が手元にないと、勉強の進行が遅れることがしばしばありますか	70	72.9	26	27.1
⑨ある勉強をすると、前にやっていた勉強がほったらかしになることがよくありますか	66	68.7	30	31.3
①学校で出された課題やレポートをまとめるのをぎりぎりまで延ばしておくほうですか	61	63.5	35	36.5
⑬自分の勉強をよくする場所から娯楽雑誌、ピンナップ(写真や絵)、趣味の品などがいつも見えていますか	55	57.3	41	42.7
⑰テレビやラジオ、レコードを聞きながら勉強することがしばしばありますか	48	50.0	48	50.0
⑱自分の勉強が室外の雰囲気や音でしばしば妨げられますか	46	47.9	50	52.1
⑮自分の勉強机の上がごたごたしているので勉強に不自由を感じるということがよくありますか	45	46.9	51	53.1
⑫写真や思い出の品やトロフィが、いつもあなたの机の上においてありますか	37	38.5	59	61.5
③宿題が時間までにできないことがしばしばありますか	35	36.5	61	63.5
⑤課外活動やスポーツで、自分の勉強ができないことがしばしばありますか	33	34.4	63	65.6
⑪自分の勉強机が窓やドアなど、気の散るものに直接面していますか	31	32.3	65	67.7
⑬床の中や、寝そべって勉強することがよくありますか	31	32.3	65	67.7
⑯自分の部屋に人が来ることで、勉強がしばしば妨げられますか	30	31.3	66	68.7
⑭自分で勉強中、照明がまぶしすぎるがありますか	12	12.5	84	87.5

ばありますか」86人(89.6%)であった。

- 3) 学習モチベーションについては、1位「テストは逃れることのできないもの、なんとかして切り抜けなければならないきびしい試練なのだといつも思っていますか」82人(85.4%)であった。

5. 対象の背景と「Study Skills」「場面技術」「方法技術」「モチベーション技術」との関連

すべての従属変数とすべての要因との組み合わせにおいて交互作用はなかった。各従属変数と各要因について主効果を検討した結果、「場面技術」

において入試形態が推薦入試の学生と一般入試の学生に有意差がみられた($F=8.255$, $df=1$, $p<0.01$)。一般入試の学生の平均値は9.1点であり、推薦入試の学生の平均値は7.5点であり、一般入試の学生が有意に高かった。

6. 個人別 Study Skills の度数分布

平均値は、 30.8 ± 7.2 点であった。最大値は49.0点、最小値は13.0点であった(60点満点)(図3)。

表2-2) 学習方法における項目別回答数と割合

学 習 方 法	は い		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)
⑪レポートの内容をまとめあげるのが困難に感じる事がしばしばありますか	86	89.6	10	10.4
③テキストを読む時、要点をつかむのが難しい事がよくありますか	83	86.5	13	13.5
⑯さし迫ってから試験の準備をするのが普通ですか	79	82.3	17	17.7
⑩レポートを書くとき、適切なテーマや内容を選ぶのが難しい事がよくありますか	78	81.3	18	18.7
④テキストを読んでいるとき、その内容と無関係のことを考える事がしばしばありますか	68	70.8	28	29.2
⑤学校のノートをとってから読み返すと、難かしくて理解できない事がよくありますか	67	69.8	29	30.2
⑧ノートをとる時、先生の言葉をそのまま機械的に書き留めるだけですか	49	51.0	47	49.0
⑮勉強の資料や参考書をそろえるのが難しいといつも思っていますか	48	50.0	48	50.0
⑲テストで質問文をよく読まないために、解答を間違える事がしばしばありますか	48	50.0	48	50.0
⑦あなたの学校のノートは新学期が始まった直後に、もう未整理のままになっていますか	43	44.8	53	55.2
⑥速く筆記できないので、ノートをとるのが遅れる事がよくありますか	41	42.7	55	57.3
⑫レポートを書く前にレポートのアウトラインを考えたりしないですか	36	37.5	60	62.5
⑬よくわからない授業のテストの準備をするとき、特に勉強せず、自分が覚えている公式、定義法則という知識だけに頼ってしまう事が時々ありますか	35	36.5	61	63.5
②テキストを読む時、図や表やグラフがあっても、それをよく見ないで、飛ばして読んでいくのが普通ですか	32	33.3	64	66.7
⑳テストの前半ゆっくりしすぎたため、後半あわてる事がよくありますか	29	30.2	67	69.8
⑭○×式や答えを選択するタイプのテストは答えにくいといつも思っていますか	26	27.1	70	72.9
⑰テストの答えを返されたとき、自分の回答を注意して見なおすことは余りありませんか	21	21.9	75	78.1
①テキストを読むときはいつも、見出しや図表には注意をしませんか	18	18.7	78	81.3
⑨レポートなどを書くとき、参考書の丸写しをするのが普通ですか	18	18.7	78	81.3
⑱試験時間内に全部回答することは、いつでも難しいですか	10	10.4	86	89.6

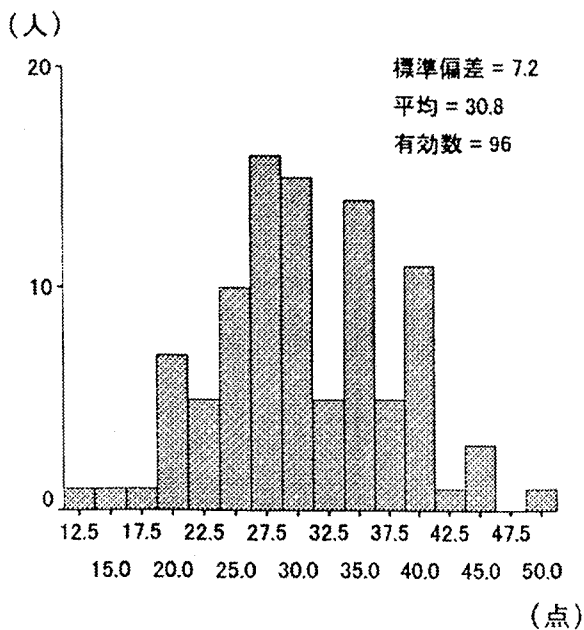


図3 Study Skills 得点分布

7. 学習上困っている事柄と対処

学習場面で最も多かったのは、「学習時間の調整ができない」8人であった。学習方法では「テスト勉強への取り組み」19人であり、学習モチベーションでは、「意欲が湧かない」3人であった(表3)。

対処については、学習場面に関して最も多かったのは、「夏季休暇、休みを利用して勉強する」13人、学習方法に関しては、「自分で頑張る」28人、学習モチベーションに関しては「友人・教員に尋ねる」9人であった(表4)。

考 察

1. 先行研究との比較

60項目全体と下位領域毎の回答合計得点の平均値を先行研究のA大学男女学生、B短大女子学生と比較すると(表5)、本学学生は、全てにおいて高い傾向を示した。比較したデータが20年前

表2-3) 学習モチベーションにおける項目別回答数と割合

学習モチベーション	はい		いいえ	
	(人)	(%)	(人)	(%)
⑭テストは逃れることのできないもの、なんとかして切り抜けなければならない、厳しい試練なのだといつも思っていますか	82	85.4	14	14.6
⑮勉強することが、その時の気分で大変影響を受けますか	81	84.4	15	15.6
⑬テストの予定が発表されるまで、テキストやノートを読まないのが普通ですか	74	77.1	22	22.9
⑦落ち着きのなさ、気分の変化、退屈で勉強に集中できないことがよくありますか	68	70.8	28	29.2
①授業が始まって何週間もたたないのに、勉強に対する興味を失うことがしばしばありますか	63	65.6	33	34.4
⑤余暇の楽しみは教育を受けるよりも重要だと思っていますか	60	62.5	36	37.5
⑫退屈でつまらないのでテキストを読むのが嫌ですか	55	57.3	41	42.7
⑥授業に出ていても先生の話の聞こえをせず、考え事をしたり、空想にふけたりすることが多いですか	47	49.0	49	51.0
⑮先生は学生の求めているものや興味がわかっていないと思うことがよくありますか	45	46.9	51	53.1
③自分の教育上、職業上の目的がわからなくなったり、決めかねることがよくありますか	41	42.7	55	57.3
⑰わからないところを先生に質問するのをいつもためらいますか	39	40.6	57	59.4
⑯先生は授業以外にも授業に関連した勉強を求めすぎると思うことがよくありますか	26	27.1	70	72.9
⑧実際には役に立たない勉強をしているんだ、と思うことがよくありますか	20	20.8	76	79.2
⑲先生と将来の教育計画、職業計画について話し合うことには、気が進みませんか	20	20.8	76	79.2
⑱先生は現在の課題や出来事を、ちっとも問題にしないと思うことがよくありますか	16	16.7	80	83.3
⑳学生仲間の雑談の中で、あなたは先生を攻撃することがよくありますか	13	13.5	83	86.5
②学校に行っても上の学年に進むこととか、卒業することを考えるだけでですか	12	12.5	84	87.5
⑩学校で教わることは生きていく際の問題解決に全く役に立たないと思えることがよくありますか	8	8.3	88	91.7
④教育を受けるための時間や努力は無駄だと思えることがよくありますか	6	6.2	90	93.8
⑨大学を落第しそうなので、いっそのこと就職をしたいと思うことがよくありますか	4	4.2	92	95.8

のものであることも考慮しなければならないが、目的意識を持った看護学生としての特徴と捉えることができる。

2. Study Skills 60項目の具体的内容

60項目の中で、「はい」と回答した者の割合が80%以上の項目は、「学習場面における項目」が5項目、「学習方法における項目」が4項目、「学習モチベーションにおける項目」が2項目であり、下位領域の中では「学習場面における項目」「学習方法における項目」が多かった。このことより、学習技術を高めるための働きかけとしては、学習モチベーションへの働きかけに比し、学習場面や学習方法への働きかけがより必要であると思われる。

3. 下位領域毎の傾向

1) 学習場面

教室でとったノートを見直すのが翌日以降であったり、時々、予習・復習を早くからやって

おけばよかったと思うことや勉強する時間が毎日一定していないなど、＜計画的に学習していない＞傾向がある。しかし、宿題は期日までにしている。また、疲労や眠気という＜生理的な問題＞のために効果的に学習できない状況があった。

アルバイトやサークル活動が「場面技術」に影響を与えると考えたが、有意差はなかった。アルバイトやサークル活動を制限しても学習場面における学習技術を高めることは難しいといえる。

一般入試の学生は推薦入試の学生より、「場面技術」において得点が有意に高かった。推薦入試の学生は、高校3年生の12月に合格が決定し、その後は受験のストレスから開放される。高校での定期試験はあるものの進路が決定したことにより学習時間の減少が推測できる。一方、一般入試の学生は合格発表の3月まで学習

表3 学習上困っている事柄

n=100

事柄		件数
学習場面	学習時間の調整ができない	8
	環境調整不足	3
	疲労	2
	学習教材・資料不足	1
学習方法	テスト勉強への取り組み	19
	内容が多く覚えられない	18
	授業が理解できない	12
	学習方法がわからない	11
	ポイントがつかめない	5
	ついていけない	4
	レポートの書き方	2
	適した文献がみつけれられない	1
	その他	1
	モチベーション	意欲が湧かない
学習習慣		1
その他		9

表4 対処方法

n=94

対処方法		件数
学習場面	夏季休暇, 休みを利用して勉強する	13
	時間の調整	2
学習方法	自分で頑張っ勉強する	28
	ノートやテキストの見直し	10
	試験対策	4
学習モチベーション	大学・図書館で勉強する	2
	友人・教員に尋ねる	9
	授業を真剣に聞く	5
	友人と協力する	1
何もしていない		11
その他		9

表5 本学と他学の比較

	本学学生	A大学男子	A大学女子	B短大女子
Study Skills	30.8±7.2	25.4±6.0	25.5±7.1	27.7±6.8
学習場面技術	8.5±2.8	7.0±2.8	7.8±2.5	7.8±2.8
学習方法技術	10.5±3.1	8.8±2.7	8.6±3.6	8.7±3.2
学習モチベーション技術	11.9±3.1	9.8±3.2	9.1±3.0	11.3±3.1

(平均値±標準偏差)

出典：林潔 (1982) 学生の Study Skills について. 相談学研究, 15 (1): 10-21.

時間や環境の調整を行っていたのであり、これと比較すると推薦入試の学生は入学後、学習のための時間や環境の調整が困難になっていると考えられる。推薦入試の学生への対応も今後の課題である。

2) 学習方法

学習方法の傾向としては、レポートを書く時に、適切なテーマや内容の選択が難しかったり、内容をまとめあげることの困難を感じるなど<レポート作成困難>の傾向がみられた。これは、学生が高校までの授業においてレポート作成という体験が少ないためだと考える。

本学では、現在、レポートの書き方について、要点をまとめた資料を配布している。しかし、提出されるレポートを見てみると中には資料を

十分に活用していないものもある。できる限り早い時期にコメントを加え返却することが重要である。学生はその結果に関心をもって受け止め、次回の学習に生かせるのではないかと考える。また、授業の中で文章表現を訓練として、積極的にとり入れることも必要である。

さらに、学生にはテキストを読む時に要点をつかむのが難しいこと、ノートを後から読み返すと内容理解が困難であることなど<要点把握困難>の傾向もみられた。最近の学生は、「黒板に書いたことしかノートを取らない。板書以外に話したこと、補足したことは取っていない」という報告⁹⁾もある。これは高校までの授業では教員が要点を整理した板書を行っており短時間に要点をノートに書くという体験が少な

いためではないかと思われる。わかりやすい板書を工夫することも必要だが、学生に自分の理解の助けになるようなノートを取らせる働きかけも必要である。

試験準備については、さし迫ってからそれを始める傾向がみられた。これは、学生が学習上困っている事柄として「テスト勉強の取り組み」「内容が多くて覚えられない」「学習方法がわからない」などをあげており、対処としては、「夏季休暇にまとめてしよう」と考えていたことの表れだと思われる。大学の場合には高校と比較すると試験範囲が広く、試験準備にとまどう状況がある。それに対しては、小テストを行うなど試験回数を増加させることも一方法であると考え。

3) 学習モチベーション

学習モチベーションの傾向については、テストはなんとかして切り抜けなければならない試験だと思っているが、テストが近づいてから準備に取り掛かり、勉強には気分が大きく影響する、という傾向があった。これらは先行研究と同様の傾向であった。

本学学生のほとんどが看護志望動機からみても医療福祉への興味や看護の仕事にやりがいを感じており入学時のモチベーションは高いと考える。しかし、1年次は看護職や看護の対象に直接接する機会も少なく内発的動機づけが低くなっていく可能性がある。本学では、Early Exposureとして入学後間もない6月に、病院や施設の見学を基礎看護学実習として2日間実施し、モチベーションの維持を図っている。1999年度生の実習終了後のレポート分析¹⁰⁾によると、レポートの具体的内容から、「学生が看護の対象に向かって心を働かせ、自分の過去の経験や知識と総合して判断・理解しようとする、主体的な姿勢が読み取れた。そして将来の目標をより明確にとらえ、自分に課題を課し、実習後の意欲の高まりを見せており、今後の学習への十分な動機づけとなった」ことが明らかになっている。

また、赤堀¹¹⁾は、フィードバックを実行することの必要性を述べている。授業のコメントを学生に書かせ、これを次回の授業で教員がフィードバックすることも学生のモチベーションを高くすることが予想される。

現在、わが国の大学での教育方法の改善が求

められている¹²⁻¹³⁾。本学でも学生が入学時の高いモチベーションを維持できるような教育方法の工夫や内発的動機づけが必要と考える。

4. 学習上困っている事柄と対処

学習上困っている事柄として、多くの学生に自覚されていた事柄は、「テスト勉強の取り組み」「内容が多く覚えられない」「授業が理解できない」「学習方法がわからない」など学習方法に関する事柄が多かった。大学へ入学した学生は、高校までの教授・学習スタイルの突然の変化に当面し不安状況を生ずるといわれる¹⁴⁾。自発的に学習基準を設けて自己学習できる学生はよいが、そうでない学生がどこまで学習すればよいか見当がつかないまま、試験前になって慌てることになる。扇谷¹⁵⁾は、「受験準備体制で受身の学習者として育ってきた学生に、教師は大学が何を学生に期待しているのかについて、明確に、具体的に、そして理由を述べてやることによって、学生が能動的に学習に立ち向かうようにせねばならない」と述べている。自ら疑問を持ち自ら調べる学習習慣・方法に移行できるような援助も必要である。

また成績評価のあり方を明瞭にし、学生の学習意欲を高める必要がある。シラバスの充実と、同時に学生自身がシラバスを活用するように働きかけることも必要である。

学習上困っている事柄への対処としては、「自分で頑張って勉強」しようという態度を示しており、学生なりに努力している姿勢がみられた。

しかし、学習方法の技術については困っていると自覚している学生が多かったが、Study Skills Surveysの下位領域の中で合計得点の低かった学習場面の技術については困っている学生は少なかった。これは、学生が学習時間や学習環境の調整の必要性を自覚していないとも考えられる。

5. 個人別 Study Skills 得点分布

Study Skillsには学生の個人差がみられた。これには自己評価の規準の相違と記名式の回答であったことも影響しているが、特に得点の低い学生の学習技術および学習上の課題と対処を把握することは必要である。

近年、大学においても学習技能訓練プログラム・学習方略訓練プログラムが開発され、学習技能を体系的に教えることが試みられるようになってきている^{3,16)}。これらの方法をヒントに個々の学生の状況に応じて学習技術を高めるための援助を行うことも今後の課題である。

結 論

1. 下位領域毎の回答合計得点の平均値は「モチベーション技術」, 「方法技術」, 「場面技術」の順に高かった。
2. 学習場面については, <計画的に学習していない>傾向, <生理的問題>のために効果的に学習できない状況があった。「場面技術」の得点は, 一般入試の学生が推薦入試の学生より, 有意に高かった。
3. 学習方法については, <レポート作成困難><要点把握困難>の傾向, さし迫ってから試験準備をする傾向があった。
4. 学習モチベーションについては, 学生は教育の重要性や自ら学習する必要性は理解しているが, 余暇の楽しみが教育より重要と考えており, テストが近づいてから準備に取り掛かり, 勉強には気分が大きく影響するという傾向があった。
5. 学习上困っている事柄として, 学習方法に関するものが多かった。その対処としては, 「自分で頑張る勉強」しようとしていた。
6. Study Skills には個人差がみられた。
7. 学生の学習技術を高めるための援助として, 学習方法や学習場面に働きかけることが有効であることがわかった。

おわりに

今回, 学習技術の測定尺度として, W.F.Brown が1965年に開発したものを使用したが, 教育環境や学生自身の高校までの学習スタイルとのズレのある表現項目がみられた。また, 学習技術を評価するためには話し方・図書館の使用法についての項目も必要と考える。これらを考慮した項目の再検討も今後の課題である。学習技術は, 教育課程が進んでいくとともに変化することが考えられるため, 今後も縦断的調査を継続したいと考える。

文 献

- 1) 小野寺杜紀他 (1990) 看護学生の学習及び専門職業的態度に関する考察 (第1報). 埼玉県立衛生短期大学研究紀要第15号.
- 2) 田中幸代 (1998) 大学教員にもとめられる教育力向上のために-教育心理学が検討できる課題の展望-. 教育心理学研究, 46: 473-483.

- 3) 林潔・滝本孝雄 (1981) 大学生の学習習慣, 学習態度の構造と性格との対応. 相談学研究, 13 (2): 18-26.
- 4) 安達祐子, 谷岸悦子, 草地潤子, 菅野正子, 金井悦子 (1998) 看護学生のスタディスキルの実態 (その2). 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 第12号: 1-9.
- 5) 安達祐子, 谷岸悦子, 草地潤子, 金井悦子 (1999) 看護学生のスタディスキルの実態 (その3) - 1年終了時と2年終了時の比較. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 第12号: 29-38.
- 6) 林潔 (1982) 学生の Study Skills について. 相談学研究, 15 (1): 10-21.
- 7) 志賀慶子, 西田恭仁子, 森田チエコ, 深瀬須加子 (1987) 看護学生の専門職業的態度の形成に関する研究-5. 短大女子学生の学習習慣・学習態度-. 神戸市立看護短期大学紀要, 第6号: 17-30.
- 8) 川野雅資, Laura Flannelly, Kevin Flannelly (1989) 学生の学習態度に関する研究. 看護教育, 30 (2): 88-91.
- 9) 窪田八洲洋 (1996) 創造性啓発のための教授法に関する一試み-調査・分析研究と実践報告-放送教育センター研究報告93 大学の授業改善II 放送教育開発センター オープンハウス「公開研究会」記録: 105-116.
- 10) 大浦まり子, 野口純子, 滝江七海子, 滝川由美子, 堀美紀子, 吉本知恵, 伊達裕子, 床田弘子 (1999) 基礎看護学実習I-①レポートの内容分析. 香川県立医療短期大学紀要, 第1巻: 61-69.
- 11) 赤堀侃司編 (1997) “大学授業の技法”, 有斐閣選書, 東京, p.13.
- 12) 辰野千尋 (1997) “学習方略の心理学-賢い学習者の育て方-”, 図書文化社, 東京, p.127.
- 13) 梶田叡一 (2000) “新しい大学教育を創る”, 有斐閣, 東京, p.18.
- 14) 扇谷 尚 (1988) 大学第一学年プログラムの課題, “大学教育とは何か” (喜多村和之編), 玉川大学出版部, 東京, p.133.
- 15) 扇谷 尚 (1988) 14), p.142.
- 16) 辰野千尋 (1997) 12), p.18.

受付日 2001年1月5日